

タンポポだより

vol.53
2025 夏号

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌



すずき出版発行「心のうたかんだあ」(平成16年版)より 詩／坂村真民「タンポポ魂」 画／海野阿育



月刊誌『致知』

有名無名やジャンルを問わず、
各界各分野で一道を
切り開いてこられた方々の
貴重な体験談を
毎号紹介しています。



書店では手に入らないながらも、
口コミで増え続け、
11万人に定期購読されている
日本で唯一の
人間学を学ぶ月刊誌です

致知出版社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9

TEL.03 (3796) 2111 (平日9:00～17:30) FAX.03 (3796) 2108

致知 検索



坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

〈編集後記〉

春芽吹いた朴の木は、掌状に8枚ほどの大きな葉を開き、柔らかく風に“ひらひらひら”と揺れていましたが、初夏ともなると緑濃くしっかりと、団扇のように“ゆらりゆらり”と涼しげな影を作ってくれています。タンポポと朴、真民の愛した花と木です。(真美子)

タンポポだより vol.53 夏号

令和7年6月1日発行

発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)

休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり

詳しくはホームページをご覧ください

坂村真民記念館 友の会

検索

あかね観音

あかねの雲が浮かぶと
いつも茜をしのぶ
わたしたち一家を救ってくれた
あの引き揚げの時の
不思議を思う
わたしに霊の存在を
知らせてくれた茜
信仰に導いてくれた茜

(後略)

「坂村真民全詩集第三巻」113ページ



朝鮮からの引き揚げ時、
重要な書類を入れて持ち帰った麻袋

坂村真民・久代夫妻にとって、待ちに待ってやつと恵まれた子供は、残念ながら死産でした。悲しみから立ち上がれない二人は、その子に茜という名前をつけ、当時教えていた女学生たちが贈ってくれたお人形を、まるで我が子のように可愛がっていました。今号で展開する話をお読みになると、紹介詩の中にあ

る「一家を救ってくれた引き揚げの時の不思議」の意味がわかり、茜さんとお人形とが一体となって、「あかね観音」の存在となることが頷けることでしょう。

掲載の写真は、終戦により朝鮮から引き揚げて来た当時のもので現在残っているものはないかと考えたとき、頭に浮かんだのが写真

の袋でした。ゴワゴワの麻袋でかなりすすけています。坂村家では、愛着を持って頭陀袋と呼んでいました。子供たちは、何かよく解らないまま昔から家の大切なものとして、母の手元に置いてあったように思います。

前回は、終戦(真民36歳、久代28歳)まででした。その後真民は、家族(久代と梨恵子)のもとに戻り、日本に引き揚げる手続き等、準備に追われることになりました。真民は、新派和歌の研究者として立つために集めた参考文献を殆ど処分し、牛車一台分を、師範学校時代の教え子の家に托して日本に帰ったと記述しています。

一方久代は、持って帰れる物は僅かですから、必要なものの選択に苦労したことでしょう。梨恵子はまだ1歳と数ヶ月、久代自身も妊娠しているという状況では、子供のための荷物も多くなります。そういう中でも、久代はどうしてもお人形を残してゆくことは出来なかった…。どんなに真民が強く言い聞かせても、普段は大人しい久代が決して首を振

らなかったそうです。

11月、釜山港から船に乗る日、港に着いて予期せぬ事が起こりました。真民が軍服を身に着けていたため、取調室に連れてゆかれ、離れ離れになってしまったのです。手荷物全てが久代一人の肩に、そして1歳の子の手を引き、荷物・書類の検査や消毒などの手続きで歩き回り、疲れ果て、お腹も痛くなって、とうとう動けなくなってしまうしました。船を目前にして、何ということでしょうか。その時、お人形さんから声が聴こえたそうです。久代は、お人形を差し出して、近くにいた米兵に

身振り手振りで荷物を船に運び自分たちを船に乗せてくれるように頼みました。気のいい親切な兵隊さんだったのでしょうね。久代と梨恵子とお腹の赤ちゃんと荷物は、無事に舞鶴港に着くことが出来ました。

一方、漸く取調室から解放された真民ですが、もう皆は港におらず、奥さんが動けなくなっていたようだとの話を聞いたことで、どんなに心配したことか。遅れて別便で仙崎港に着きましたが、家族は見当たりません。晩年、父・真民は「あの時ほど私の勤が働いたこととは無かったなあ」と言っておりましたが、仙

崎から舞鶴を目指し、そこで久代たちに会えたのです。その時の二人の感慨は、言葉にはならないでしょう。

「茜さんの霊が私たち家族を救ってくれた」——真民・久代夫婦は、ずうっと茜さんのことを想い続けました。特に久代は、片時も忘れることは無かったと思います。

今、「念ずれば花ひらく」と刻まれたお墓の下で、小さい茜さんのお骨は父親と母親のお骨に挟まれて3人仲良く眠っています。

文／西澤真美子

表紙の詩



タンポポ魂(60歳)

踏みにじられても
食いちぎられても
死にもしない
枯れもしない
その根強さ
そしてつねに
太陽に向かって咲く
その明るさ
わたしはそれを
わたしの魂とする

この詩は、真民が60歳の時の詩ですね。

還暦を迎えた真民が、自分の生き方を再確認し、新たな人生に向けての決意表明をした詩とも言えます。

真民は、この詩に対する想いを、随筆集「愛の道しるべ」のなかで「タンポポは雑草である。金にもならぬ野の花である。そういう花にじっと目を注ぎ、じっと見つめ、ああタンポポは自分自身だと思い、励まされ教えられ、わたしは生きてきたのである。」と書いています。

小さい時から、辛い事や悲しいことをいっぱい体験してきた真民にとって、タンポポは自分自身であり、どんなに逆境にあっても、なお前に向かって、太陽に向かって咲こうとするタンポポの花の生きざまを、自分自身が生きていく、生きる力の源として考えていたのです。それを、「タンポポ魂」を「わたしの魂とする」という言い方で、表現しているのだと思います。

坂村真民記念館を応援して下さる皆様へ

坂村真民記念館は、東日本大震災の翌年の3月11日に開館して、今年で13年目を迎えました。

これまで多くの方々のご支援とご協力のおかげで、記念館を維持運営して参りましたが、新型コロナウイルスの影響を受けて休館を余儀なくされ、その後も来館者数の減少傾向が止まらず、記念館の経営は非常に厳しい状況が続いています。

そういう中でも、真民詩の熱心な愛読者の皆様が全国からご来館いただき、私たちスタッフの心の支えとなり、いつも励まされています。

遠く北海道から、また鹿児島から、「いつかは記念館を訪ねたい」と思っていました。やっと念願が叶いました。」とおっしゃる方もいます。

しかしながら記念館の経営面では、入場料収入と売店収入だけでは、記念館を維持運営していくことはできず、開館当初より、砥部町から赤字分を毎年補填してもらっているのが現状です。

この赤字を何とか減少させるため、わたしたちも出来る限りの経費節減に努めていますが、収入の増加を図らなければ根本的解決にならず、記念館は存続の危機に立っています。

そこで、記念館を応援して下さる全国の皆様へお願いです。

①記念館には、「坂村真民記念館友の会」という組織があり、会員になって記念館を財政的に支援する制度があります。詳細は、「入会のご案内」をご覧ください。

②直接的な支援策として、「記念館への寄付」という方法もあります。

「坂村真民記念基金のご案内」をご覧ください。

記念館が置かれている現状をご勘案下さり、どうぞ皆様のご支援・ご協力を心からお願いいたします。

坂村真民記念館館長 西澤 孝一

(追伸)

「坂村真民の生き方」からすれば、「皆さんに負担をかけるようなことまでして、記念館を維持する必要があるのか。」と叱られるところですが、せっかく砥部町が建設して下さり、全国の皆さんの「心の支え」となっている記念館を、閉館させてしまつては申し訳ないと思い、あえてこのようなお願いをする次第です。



①「坂村真民記念館友の会」入会のご案内

パスポート会員	一般会員	特別会員	法人会員
年会費:2,000円 ■会員証(入館無料1人) ■会報送付 ■真民ストラップ (新規入会者のみ)	年会費:5,000円 ■会員証(入館無料1人) ■観覧券5枚贈呈 ■会報送付 ■真民色紙(新規入会者のみ)	年会費:10,000円 ■会員証(入館無料2人) ■観覧券10枚贈呈 ■会報送付 ■真民色紙(新規入会者のみ)	年会費:10,000円 ■会員証(入館無料2人) ■観覧券10枚贈呈 ■会報送付 ■真民色紙(新規入会者のみ)

【入会手続きに関して】

- 郵便局にて振込用紙に以下の必要事項を記入し、年会費をお振込みください。
(郵便番号、住所、氏名、電話番号、メールアドレス、入会区分【パスポート・一般・特別・法人】)
- 会員期間は入会日から翌年の当期末日(2年以上ご加入される場合は期間満了年の当期末日)までです。
- 2年以上でご加入される場合は、すべての年会費を1割引といたします。
- 会員証・観覧券は入会時に送付いたします。
- 会報「タンポポだより」は、年4回送付いたします。
- 会費の払戻しはできません。

※複数口のご加入も歓迎します。

【年会費振り込み先】

ゆうちょ銀行(金融機関コード9900)
一六九 店(イチロクキユウ店)
当座 0116400
名義:坂村真民記念館友の会



詳細は <https://www.shinmin-museum.jp/friend/admission/>

②坂村真民記念基金のご案内

基金の使い道

- 坂村真民記念館の管理運営に関する経費の財源に充てます。
- 真民詩への親しみと理解を深めるための事業に関する経費の財源に充てます。
- その他、基金の目的に沿った経費に充てます。

寄付の方法

タイトルに「坂村真民記念基金 寄付申込書」と記し、氏名、郵便番号、住所、寄付金額を明記し、FAXまたはメールで坂村真民記念館に送付後、金融機関窓口で払い込みください。

FAX:089-969-3644 メール:info@shinmin-museum.jp

【寄付振り込み先】

ゆうちょ銀行(金融機関コード9900) 一六九 店(イチロクキユウ店)
当座 0043419 名義:坂村真民記念館

※通信欄に「寄付」と記入してください。

寄付金の税務上の取り扱い

この寄付金は、国または地方公共団体に対する寄付金に該当します。

〈個人の場合〉

寄付者が砥部町へ寄付した場合、寄付金額のうち、2,000円を超えた額について、個人住民税額のおおむね1割を上限として、所得税や個人住民税から税金を軽減できます。(ふるさと納税制度)

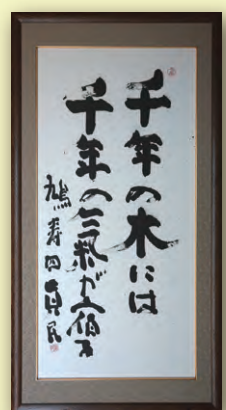
〈法人の場合〉

事業年度の損金の額に算入されます。(法人税法第37条第3項第1号)



詳細は <https://www.shinmin-museum.jp/information/15135/>





「木は氣なり」

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

真民詩とわたし vol.53

いつしか人の心に寄り添えるよう 鈍刀を磨き続けていきたい

記念館ボランティアガイド ^{なが い} 永井 ^{そう} 颯



幼い頃から真民詩に触れ、記念館のボランティアガイドとなった永井さん。闘病中の祖母に力を授けた真民さんの詩「鈍刀を磨く」に救われて、人の心に寄り添えるような大人になりたいという希望を胸に、この春社会へ旅立った。

◆いつも身近に真民詩があった

私は生まれてすぐ母の地元である砥部町に移り住みました。

砥部町に至る所に真民さんの詩碑があり、物心ついた時には自然と真民さんの存在を知っていました。

真民さんの詩碑は小学校や中学校にもありました。国語や道德の教科書に、真民詩が登場したのも覚えてます。

私が初めて真民記念館に足を運んだのは、小学2年生の社会科見学でした。そのとき私は子どもながら、真民詩に癒されたのです。

高校に入学した私は、自分を育ててくれた砥部町に恩返ししたいと思うようになりました。そんなある日、砥部町の広報誌に真民記念館のボランティアガイドの募集の記事を見つけ、応募することにしたのです。

ガイドに採用されてから約2年が経過しましたが、真民詩を勉強すればするほど真民さんの世界に魅了されています。ガイドとしてはまだまだ至らないところもありますが、館長さんやガイドの諸先輩方に多くのことを教えていただきながら日々活動しています。

◆受け継いだ鈍刀を磨き続けた

私がボランティアガイド養成講座を受けていた2年前の夏、祖母が大病を患い医師から余命3ヶ月の宣告を受けました。そのことを館長さんに話した時に、館長さんが祖母に真民さんの「鈍刀を磨く」という詩を贈ってくださいました。鈍刀をいくつ磨いても名刀にはなりませんが、磨く本人が変わってきます。祖母の病氣も絶対に治りませんが、何かが変わると信じて治療を続けられたいことがあるかもしれません。私は祖母に詩の全文を見せました。祖母は「鈍刀を磨く」に感銘を受け、それから真民さんの詩をよく読むようになりました。粘り強く治療を行いました。

祖母は昨年の8月に息を引き取りましたが、医師に宣告された余命の約4倍も生きることができました。決して治らないとわかっていながらも諦めない祖母の姿はまさに鈍刀を磨いているようでした。

私自身物覚えがいい方ではなく、特別何かに才があるわけでもありません。このような私にとっても「鈍刀を磨く」は大変心強い詩で、何度も救われました。今私にできることは

祖母が磨き続けた鈍刀を受け継ぎ、さらに磨きをかけていくことだと思います。

真民さんについて勉強する中で1つ気づいたことがあります。それは、真民さんが息を引き取った平成18年に私が生まれたことです。この事実には私は何か運命的なものを感じています。

私が真民詩に救われたように、多くの人が真民詩から生きる上でのヒントを得ることができると思います。これからもボランティアガイドとして、少しでも真民詩の魅力を様々な方にお伝えするとともに、自分と同世代の若い人にも真民詩の魅力を伝えられるように努めます。

私は今年の春に介護施設に就職しました。真民さんが詩を通じて多くの方に寄り添ったように、私は介護を通じて少しでも多くの方に寄り添える人間になりたいと思っています。

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム
To-be
全78居室/20㎡～24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部
全18居室/40㎡～90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社



医療は 人なり

徳真会グループの想い

医療法人徳真会グループは、1981年新潟県の旧新津市という地方の小さな町より始まりました。ユニット3台、スタッフ6名といった、どこにでもある様な小さな歯科医院からスタートし、以来45年間、常に患者さま本位の歯科医療の在り方を追求し続けてまいりました。

また、国家依存度の低い自立した組織運営を模索し、「世界が舞台」という意識で組織創りを目指してまいりました。

現在、年間70万人の患者さまにご来院いただく、日本最大級の歯科医療グループとなっていますが、時代先駆の歯科医療グループの創造を目指して、私たちの挑戦はまだ続きます。



新潟、宮城、東京、大阪、福岡に30医院。
詳しくはホームページをご覧ください。

徳真会グループ

検索

www.tokushinkai.or.jp

